

## 社長交代を機に考える、会社の未来、粉体技術の未来

Time to Pass the Baton: Thoughts on the Future of Our Company and Powder Technology



芦澤 直太郎\*  
Naotaro Ashizawa

私が経営する機械メーカー、アシザワ・ファインテック（株）は創業 120 周年を迎えた。私自身は父の後継として社長を 23 年間務めてきたが、還暦を前にしてその職を幹部社員の一人に譲った。今後は代表取締役会長として、粉体技術の学会や工業界の発展、そして人類と地球環境の持続的な共生のために、微力ながら励んでまいりたい。

今日の当社は、ビーズミル（媒体攪拌型の粉砕機）の専門メーカーとして、平均粒子径が乾式粉砕で 1 μm 未満、湿式分散では 10 nm 程度までの微細化を実現した。これはトップダウン方式で実用レベル（研究用小型機から量産用大型機まで対応）の装置としては世界最小レベルの微粒子製造能力であると自負している。この機械の主な用途は、積層セラミックコンデンサ、リチウムイオン電池、インクジェット、UV カット化粧品など、付加価値や将来性の高い身近な製品である。粉であると認識されないほど細かいことが、自慢でも悩みでもある。

これらナノテク市場の拡大を予見して当社が粉砕機・分散機を開発製造してきたわけではない。当社のビーズミル参入は 1980 年代からであり、すでに他社の機械が塗料や印刷インキなど主要な市場を占有していた。やむをえず、競争の少ない「より小さく、より均一に、より環境にやさしい」微粒子技術の確立に活路を求めた結果に過ぎないのだ。

さらに歴史を遡ると、ちょうど 100 年前に発生した関東大震災で焼け野原となった東京都心を、それまでの木造建築に替わり耐震耐火性の高い鉄筋コンクリート製の建物で復興させるという社会的要請を受けて、当社の前身の芦澤鐵工所はセメント製造設備としての大型のロータリーキルンで国内有数の実績を収めた。また戦後の高度成長時代には、砂糖や化学肥料などの生産工程で使用

される集塵装置や噴霧乾燥機（スプレードライヤー）の製作も手掛けた。

時代の変化に対応して製品や市場を変化させ、必死に生き抜いてきた当社である。いずれの製品も粉体技術の要素であり、それを限られたヒト・モノ・カネを工面して独力で高めた成果である。繰り返すが、粉体技術の優位性や将来性を見通した上で特化してきたものではない。そのため、粉体工学を専門とする先生方や学会との交流はせいぜい最近の 20 年間に過ぎず、もっと早く深く共同開発などを手掛けていればよかったと思う。

今日、私たちは気候変動、食糧・エネルギーの枯渇、人口の爆発または減少、国際紛争など地球規模での課題を抱えているが、私はこの急激な変化を粉体技術や自社のビジネスが飛躍する無二のチャンスと前向きに捉えている。脱炭素社会やサーキュラーエコノミーへの挑戦は始まったばかりで成否を予断できないが、私たちには粉体技術を駆使して人類と地球を救う使命と可能性が与えられていると思うだけでもワクワクする。当社としてもナノ粒子への微細化にとどまらず複合化やメカノケミカルへの応用などへの取り組みを、今度は粉体工学の専門家の皆様に資金を提供するなどして共に進めてまいりたい。

いま私がかつても強く感じることは、これほどの実績、将来性、学び甲斐と働き甲斐のある粉体技術の分野で、自社のみならず学会や業界を担う未来の人財を量的にも質的にも高めることの必要性である。社長を退任した私は、当学会の理事そして東京粉体工業展の副委員長の役を拝命して、粉体に関わる産学官の方々との接触が増えたが、先生方も企業の方も人材不足を大変危惧されている。私には就職活動を終えたばかりの子供がいるが、残念なことに、粉体業界はおろか B to B の企業には見向きもしない実情を見せつけられた。若者と親御さんたちには「スマホもゲーム機も化粧品も、すべて粉体技術で作られているのだ」と知ってもらい、粉体を研究し、ビジネスで貢献しようとする人を広く募りたいと思う。牧野尚夫元会長も同趣旨のことを述べられていた。私自身は研究者でも技術者でもないが、皆様への過去 100 年の御恩返しとして、100 年先の人財育成のための枠組み作りや資金支援を始める決意だ。

### 〈著者紹介〉

1964 年生まれ。機械メーカーの 4 代目として育てられる。1987 年慶應義塾大学法学部法律学科卒業。(株)三菱銀行(当時)で融資業務を経験し、1991 年アシザワ(株)入社。2000 年代表取締役社長。2003 年創業百年を機に全社員を解雇した上で新会社アシザワ・ファインテック(株)として再出発、ナノテク分野の微粉砕機メーカーとなる。2023 年代表取締役会長。粉体工学会理事、習志野商工会議所会頭を兼任。

\* 連絡先 naota@ashizawa.com